

信濃町商工会管内景気動向

【令和2年度第IV四半期(R3年1月～3月)】調査報告書

調査の趣旨

企業を取り巻く経営環境の変化に対応する為、地域産業振興施策と事業者支援施策の為景気動向について調査を実施

調査方法

期間：2021年5月10日～5月31日

対象：信濃町商工会会員 322人

方法：アンケート用紙郵送による 手回収及びFAXによる回収

調査結果概要

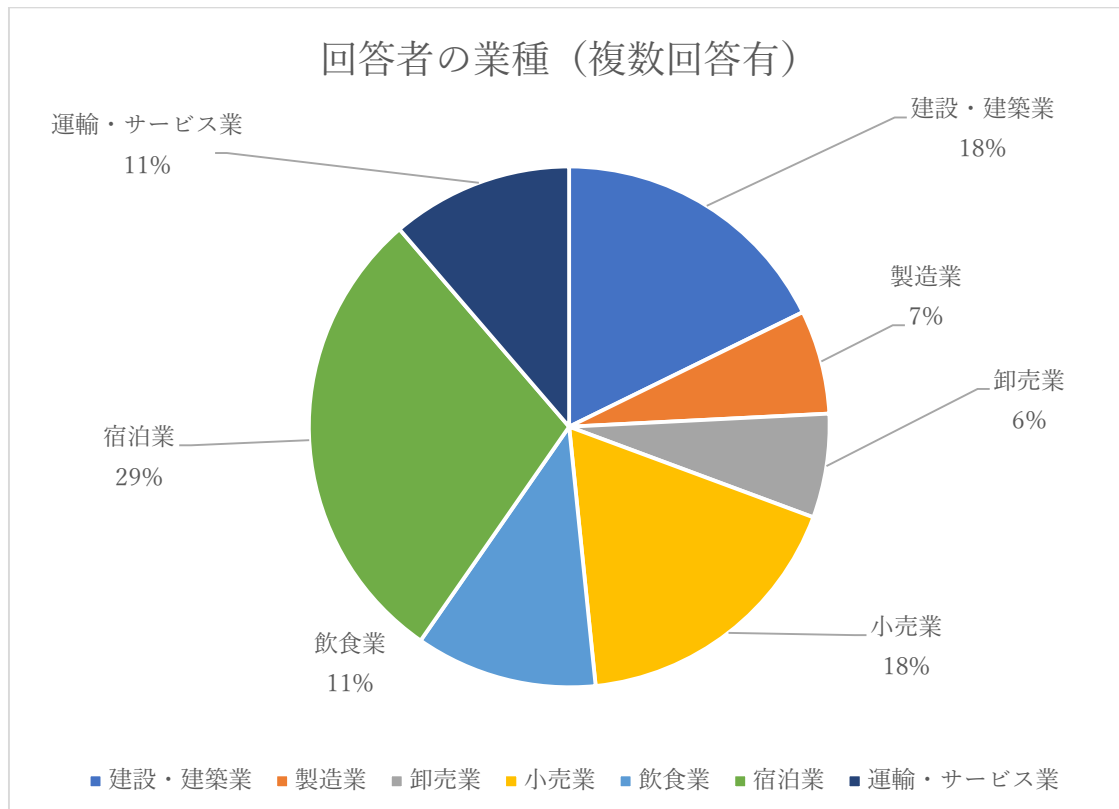
2020年4月に全都道府県に緊急事態宣言が発出されて以来、飲食業・宿泊業を中心に売上高・取引高・利益状況の悪化が続いているが、2021年1月8日に2度目の緊急事態宣言が首都圏の1都3県に発出された影響により、売上高・取引高・利益状況が引き続き悪化している状況が顕著に表れる結果となった。

一方、建設・建築業については、売上高が増加したとの回答が減少よりも多く、人材不足が課題として挙げられていることから、業種間で回復格差が発生している状況が見える。

調査内容詳細

回答者の業種

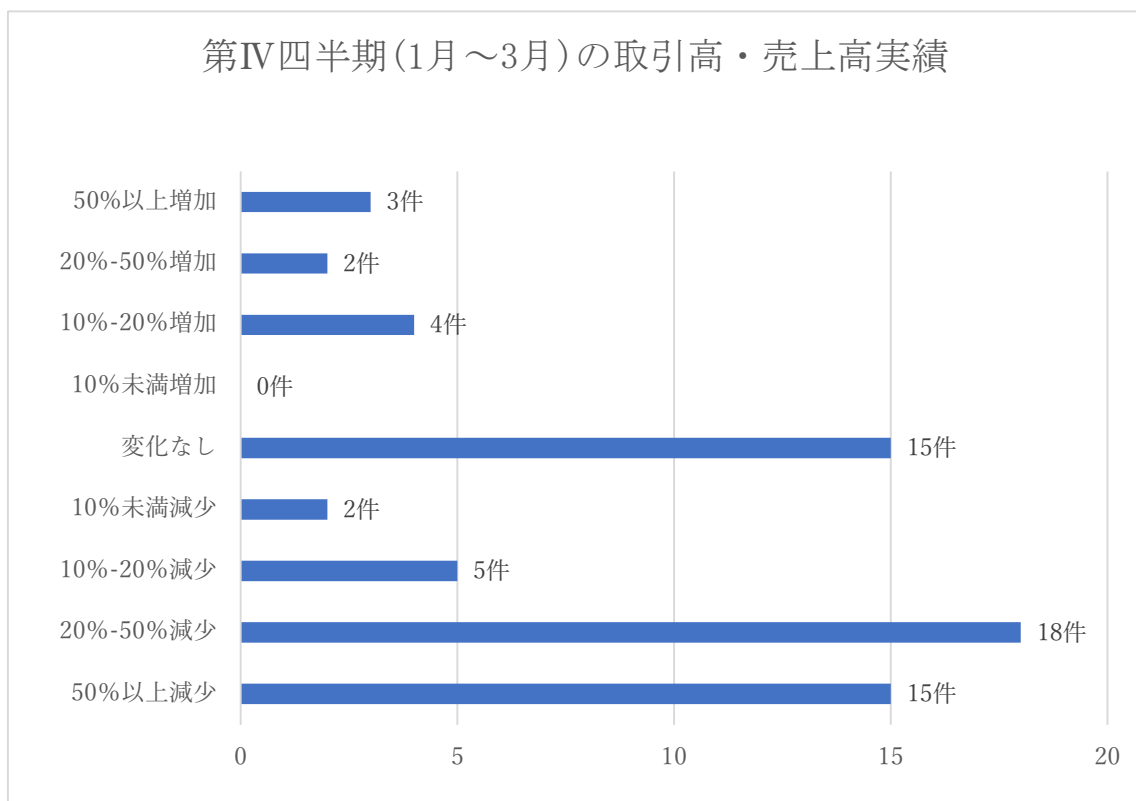
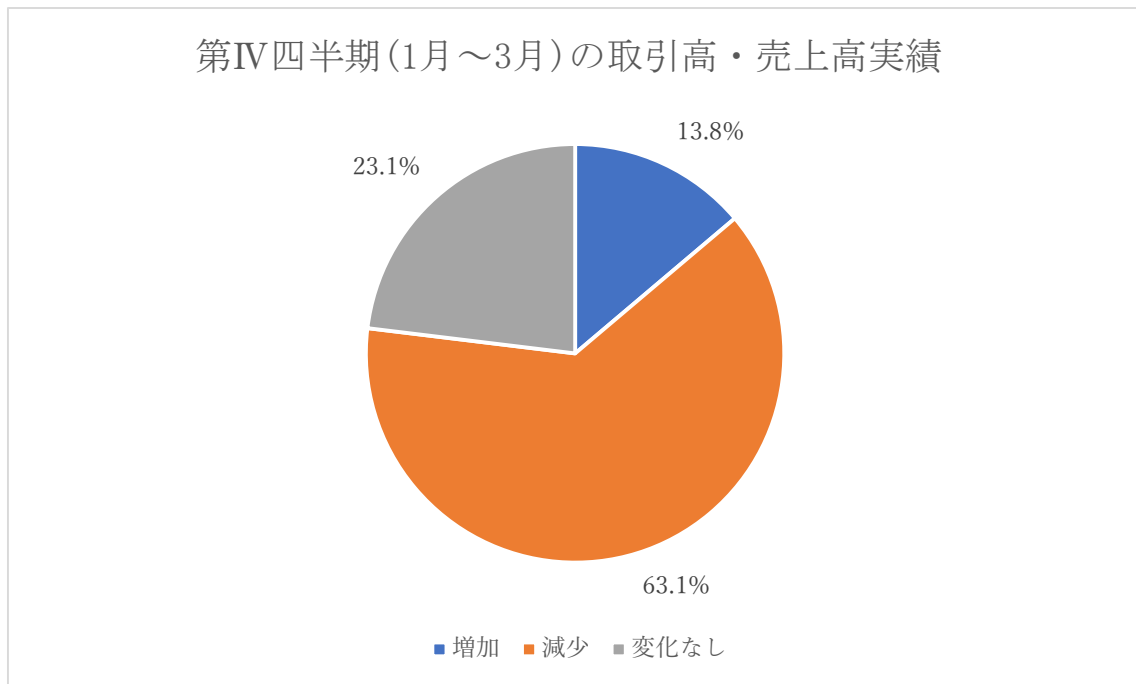
回収アンケート数 計 67件 業種合計 計 72件（複数回答有）



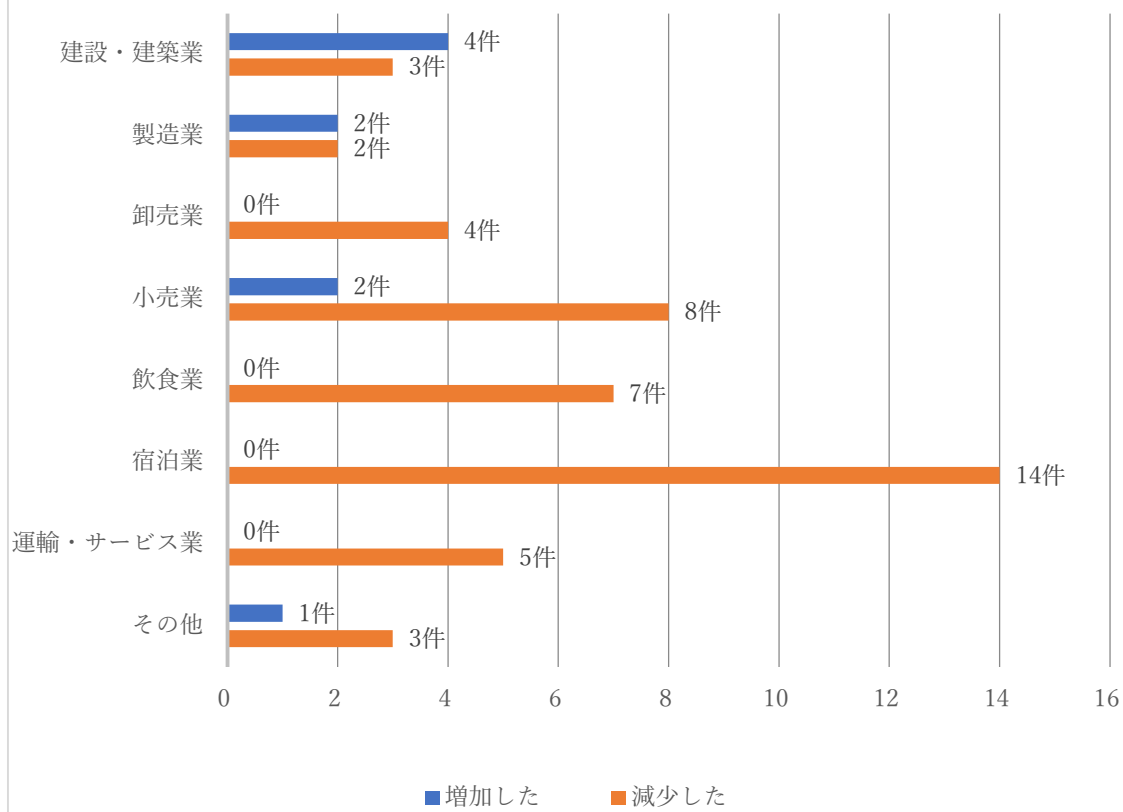
1 前年同期に比べてIV四半期(R3年1月～3月)の取引高・売上高実績について

IV四半期(R3年1月～3月)の取引高・売上高実績は、回答頂いた13.8%の事業者が増加、63.1%の事業者が減少、23.1%の事業者が変化なしと回答している。

また、業種別の増加と減少を比べると、宿泊業者が減少したと回答した割合が多く、次点小売業者、飲食業と続いている。

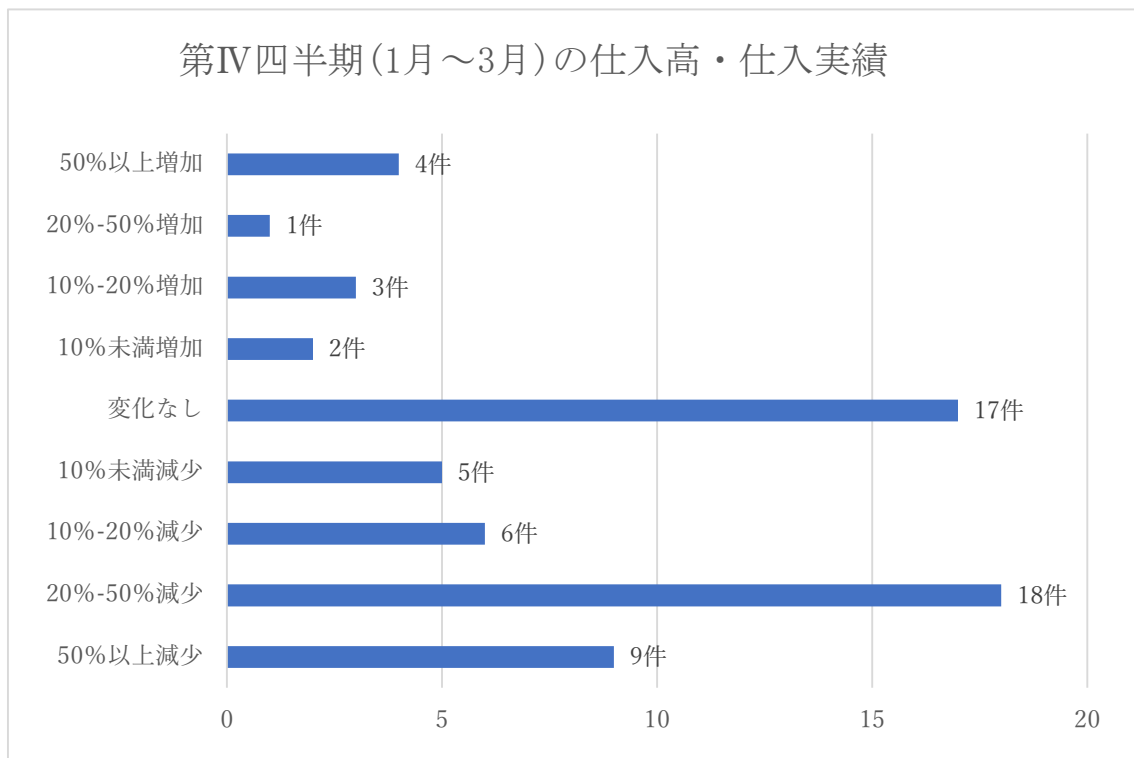
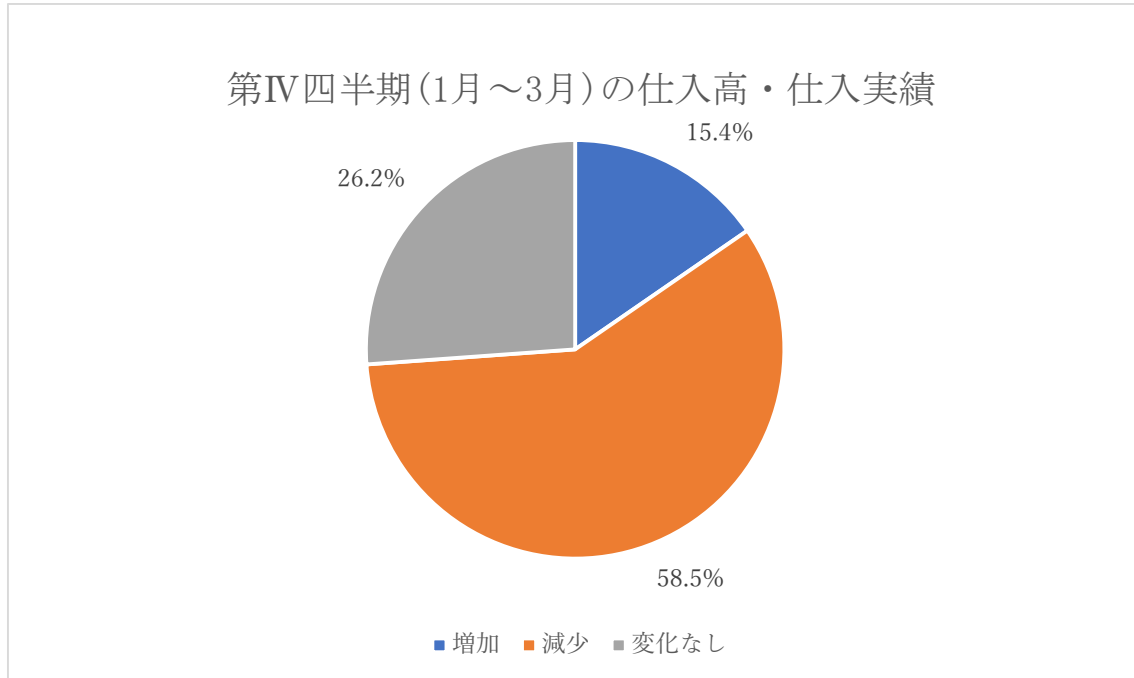


第IV四半期(1月～3月)の取引高・売上高実績



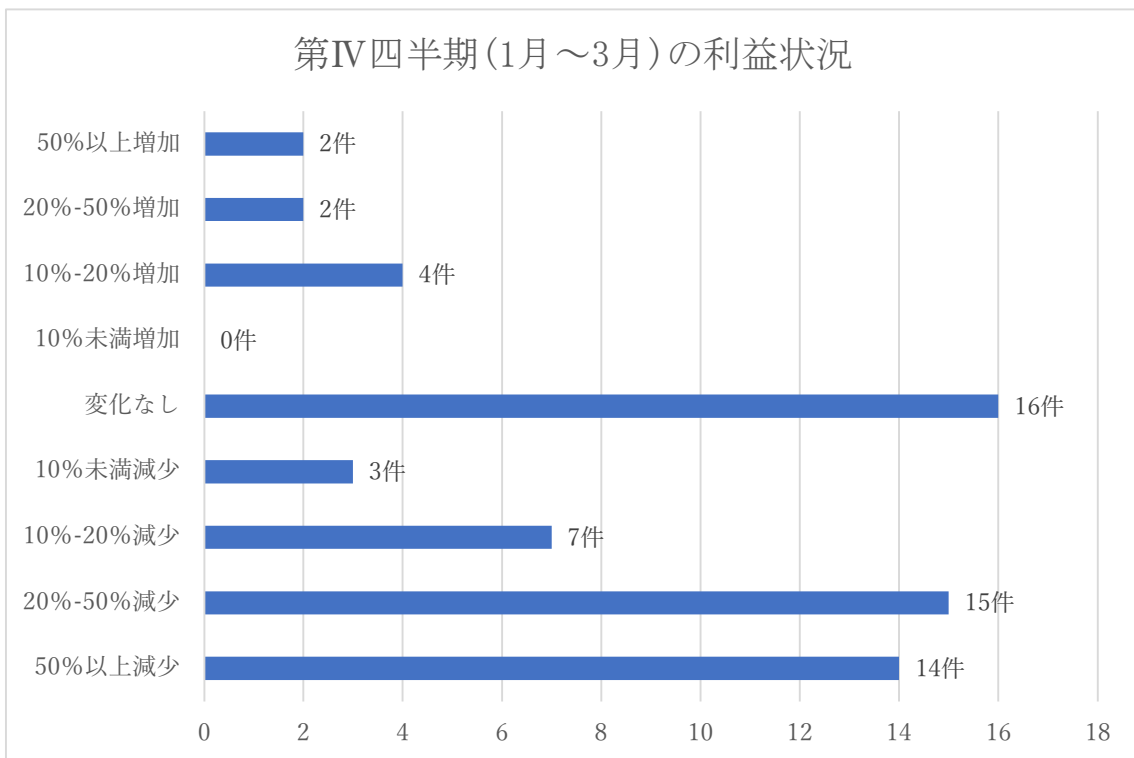
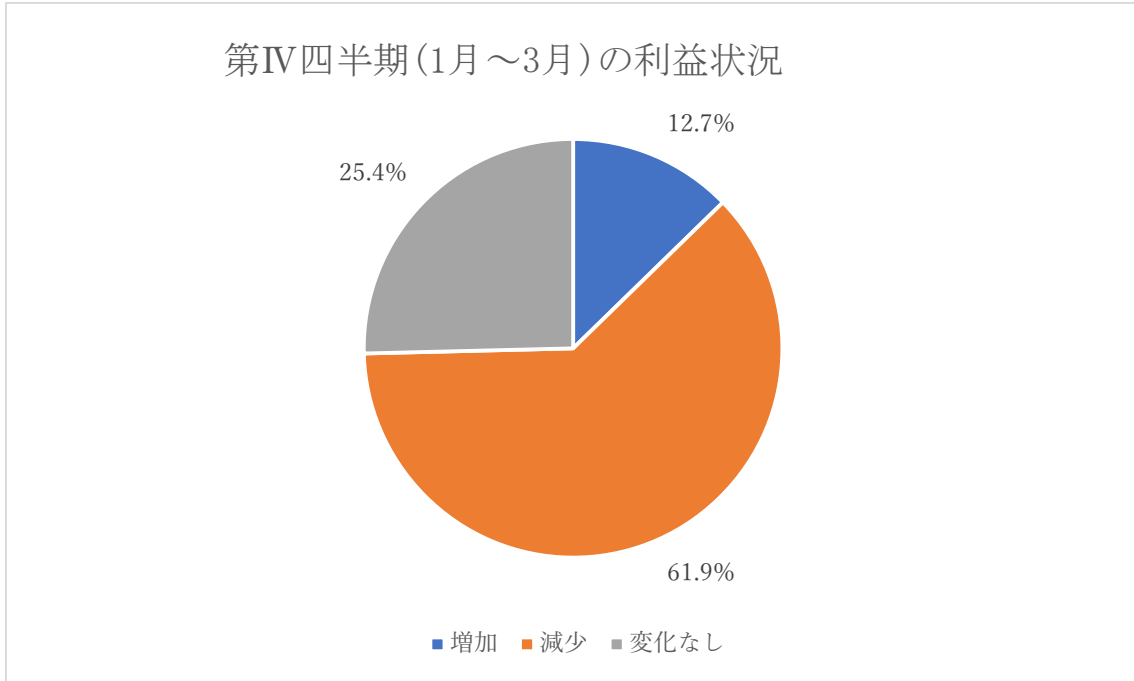
2 前年同期に比べてIV四半期(R3年1月～3月)の仕入高・仕入実績について

IV四半期(R3年1月～3月)の仕入高・仕入実績は、回答頂いた15.4%の事業者が増加、58.5%の事業者が減少、26.2%の事業者が変化なしと回答している。



3 前年同期に比べてIV四半期(R3年1月～3月)の利益状況について

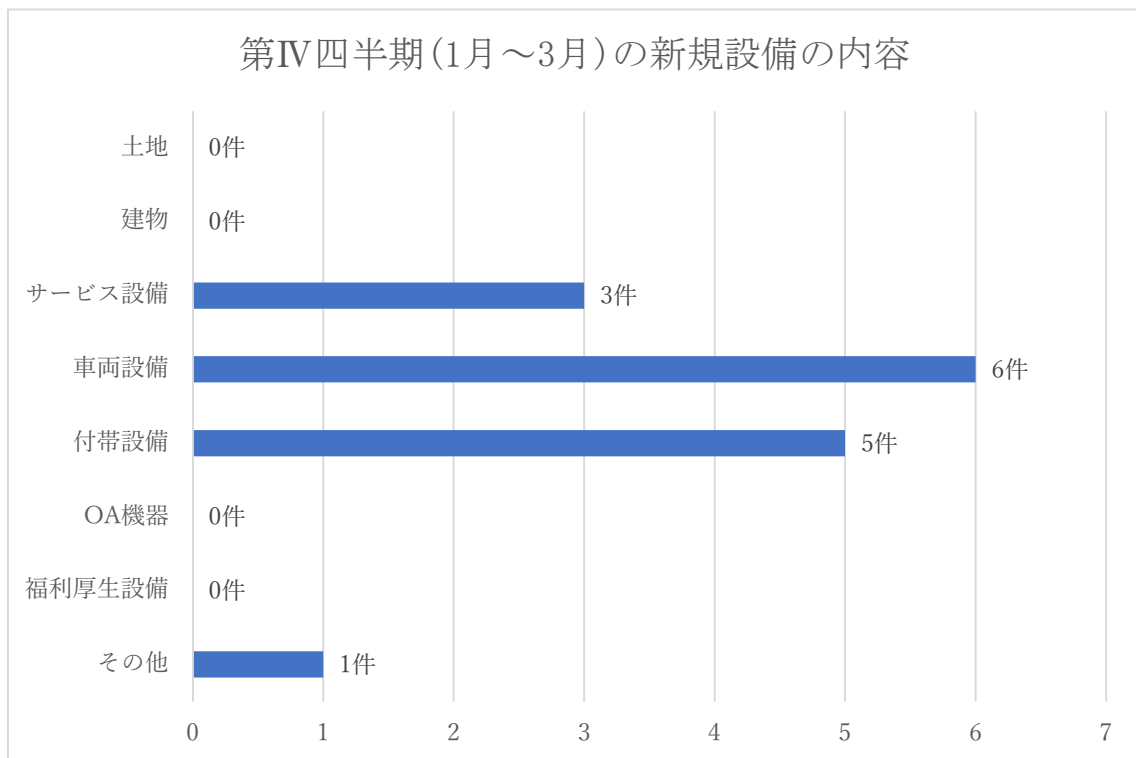
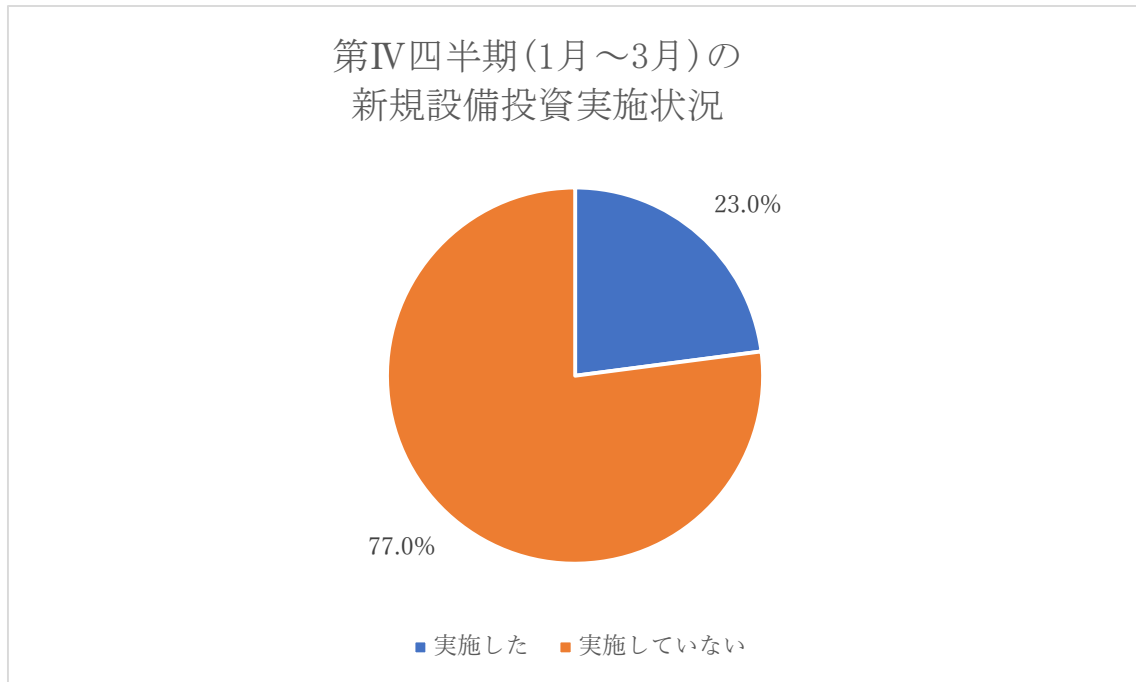
IV四半期(R3年1月～3月)の利益状況は、回答頂いた12.7%の事業者が増加、61.9%の事業者が減少、25.4%の事業者が変化なしと回答している。



4 IV四半期(R3年1月～3月)の新規設備投資について

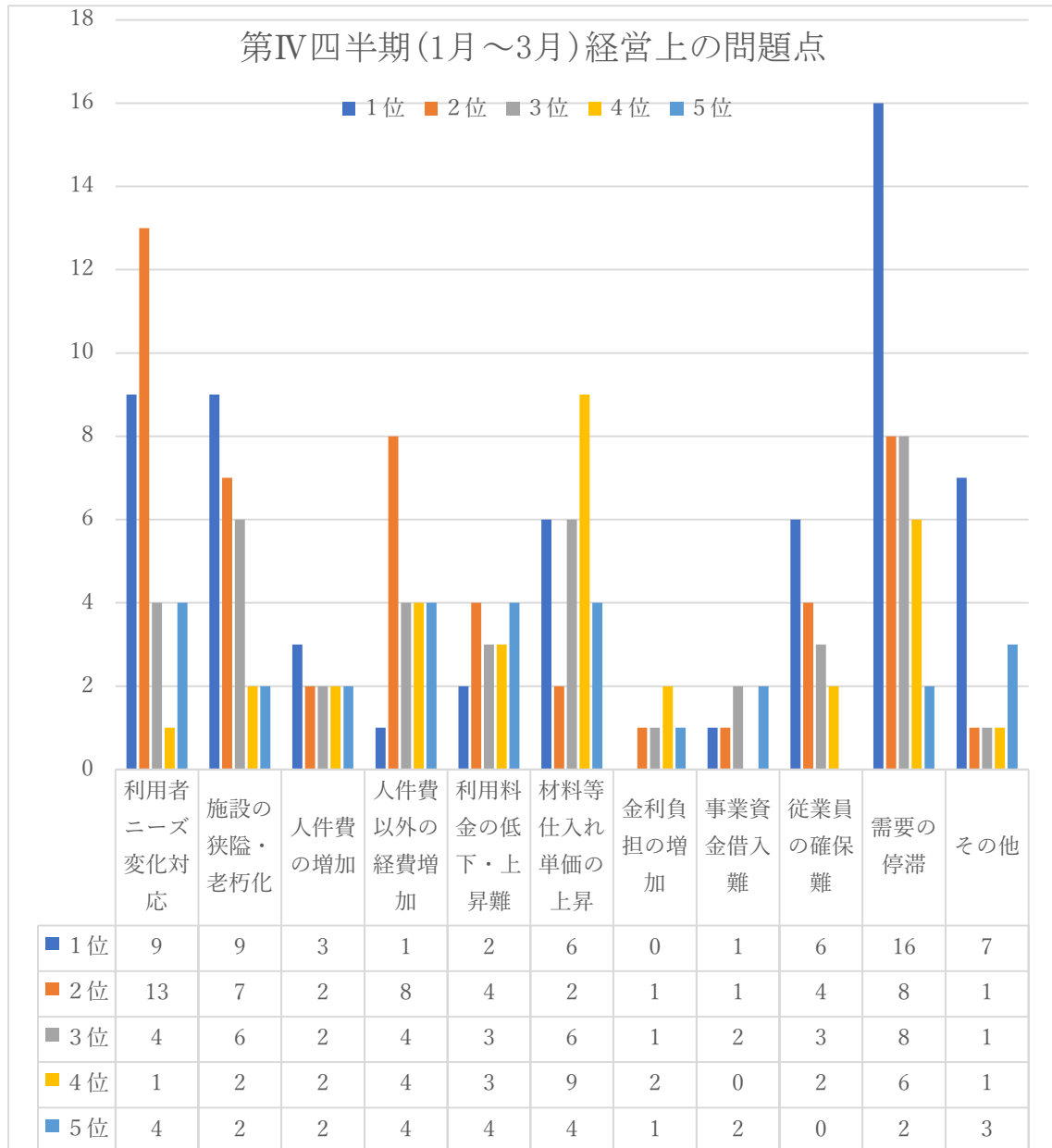
IV四半期(R3年1月～3月)の新規設備投資実施状況として、23.0%が実施しており、77.0%が実施していないと回答を頂いた。

投資した内容として、一番多かったのが車両設備、次いで付帯設備となっている。



5 IV四半期(R3年1月～3月)直面している経営上の問題点

IV四半期(R3年1月～3月)に直面している経営上の問題点として一番多く認識されたのが『需要の停滞』次いで挙げられたのが、『利用者ニーズ変化対応』・『施設の狭隘・老朽化』であった。



以下【その他】であげられた回答を原文のまま掲載しております。

業種	自由記載
建設・建築業	従業員の教育
建設・建築業	木材が入手困難
運輸・サービス業	コロナによる売り上げの減少
運輸・サービス業・小売業	コロナにより旅行者が減少
卸売業	コロナによる売り上げの減少
飲食業	コロナによる首都圏からの旅行者が減少
飲食業	冬期間休業
宿泊業	インバウンド減少
宿泊業	コロナによる売り上げの減少
宿泊業	コロナによる休業
宿泊業	コロナによる宿泊者の減少
その他	コロナによる観光客の減少